

# ヒグマフォーラム in おこっぺ 2024

## 地域で創るランドデザイン

共催：ヒグマの会・興部町

2024年11月9日(土)

北海道紋別郡興部町興部仲町 興部町中央公民館



講演  
要旨



Bear Land Hokkaido  
北海道のシンボル動物は  
ヒグマに決まりました。



坪田 敏男（北海道大学、ヒグマの会会長）

今年のヒグマフォーラムは、初めて興部町にて開催いたします。ここ数年間は、札幌市や旭川市といった都市圏での開催が続いていましたので、地方での開催は2018年の標茶町での開催以来となります。ヒグマフォーラムを開催する目的の一つは、各地域で日頃から汗をかきながらヒグマ対策を推し進めておられる方々の取り組みを拾い上げ、さらに前進させるための基盤作りを後押しすることにあります。今回は、まさに興部町で進めておられるヒグマ対策を、この機会に一步でも前に進められるよう地元行政、猟友会、さらに住民の方々と前向きな議論を交わしたいと考えます。

ヒグマの会では、4年ほどの時間をかけて“ヒグマと向きあうランドデザイン”を策定しました。これは、北海道のヒグマ管理計画をどのように実践していくのが理想的か、今後10年ほどを見越したその方向性や運用の具体を記したものです。昨年までの3回のヒグマフォーラムでその内容を会員諸氏と共有してきたので、理解は深まってきたことと期待します。次の段階として、この理想論をいかに実践に移せるかが今まさに問われています。その一つの契機として今回の興部町でのヒグマフォーラムを活かしたいところです。すなわち、興部町を中心としたオホーツクの地域が一体となってヒグマ対策に取り組めるよう、基盤の構築にお役に立てればと考えます。

ヒグマは北海道の豊かな自然を象徴する野生動物であり、私たち道民が次世代へと引き継いでいくべき生物多様性の重要な要素です。一方で、近年、人とヒグマの軋轢が増大し続けている現状にあって、その対策が急がれます。人とヒグマの共存を図るために適切な保護管理施策の推進が今こそ必要とされているのです。この度の「ヒグマフォーラムinおこっぺ2024」において、人とヒグマの関係のより適切な方向性について、会員諸氏ならびに地域の人々と共に考える機会としたいと思います。

末筆になりましたが、共催いただいた興部町町長をはじめとする地域関係者の皆さま、協賛いただいた企業・団体の皆さまに深く感謝申し上げます。





碓 一寿(興部町長)



「ヒグマフォーラムinおこっぺ2024」が開催されますことに感謝を申し上げますとともに多くの皆様のご来訪に心から歓迎を申し上げます。

このフォーラムはヒグマの会の皆様との共催でありまして、本町のヒグマ対策並びに野生動物との共生という大きな課題に取り組む「指針」を学ばせていただく絶好の機会を与えていただいたと町民一同感謝をするものであります。

さて、私事で恐縮ではありますが、我が家は町から15キロ奥地にある農家兼林業家でありました。この地で生まれ育ち67年経ちましたが子供のころから40代までヒグマと出会うことは全くありませんでした。しかし、近所の農家が飼っていた羊がクマに襲われたとか、ヒグマに敏感な馬が放牧地から逃げてきたという話はよく聞きましたし、公共牧野に放牧している牛が襲われハンターが駆除したなどということはよくある話でありました。このようにヒグマたちは人間を恐れ、私たちの生活圏周辺で極力人の目に触れないように生存していたものと思われれます。しかし、マタギと呼ばれるような猟師が春グマ駆除廃止とともに生業を失い、並行して農家の離農も進み、開拓により切り開いた山あいの畑に柳などが繁茂するようになれば、臆病なヒグマであっても身を隠す場所がどんどん増えるわけですから私たちの目に触れる機会が増えることは必然なことかもしれません。では、そんな時代に生きる私たちは急増するエゾシカやヒグマたちとどのように共生して行けば良いのかを考えるのがこのフォーラムの趣旨であると考えています。ヒグマの会では昨年「ヒグマと向き合うランドデザイン」を策定されましたが、オホーツク地域の現状や課題も踏まえまして、このランドデザインがより実践的なものになるよう、実りある意見交換がなされることをご期待申し上げます。

結びに、ヒグマの会をはじめ関係者の皆さまのより一層のお力添えをお願いするとともに、ますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げご挨拶いたします。

## プログラム

司会進行：向井 徹（北海道魚類映画社、ヒグマの会理事）

### 13:30 開会

- 開会挨拶／坪田 敏男（北海道大学、ヒグマの会会長）、裕 一寿（興部町長）
- 来賓挨拶

### 13:40 講演

- 西オホーツクのヒグマの生息状況／白根 ゆり（北海道立総合研究機構）
- 興部のヒグマの現状について／新井田 隆央（興部町役場産業振興課）
- 西興部村のヒグマの現状について／中原 慎一（猟友会興部支部西興部部会）
- 北海道のヒグマの現状と課題／武田 忠義・亀崎 学（北海道野生動物対策課ヒグマ対策室）

### 15:10 休憩（約10分）

### 15:20 質疑応答



### 15:30 講演

- 人身事故とその防ぎ方／釣賀 一二三（北海道立総合研究機構、ヒグマの会理事）
- 興部地域のグランドデザイン案の提案／山中 正実（知床財団、ヒグマの会理事）・大石 徳博（猟友会興部支部興部部会）

### 16:30 休憩（約10分）



## 16:45 パネルディスカッション



司会進行：佐藤 喜和(酪農学園大学、ヒグマの会事務局長)・  
山本 牧(NPO法人もりネット北海道、ヒグマの会副会長)

### ●興部地域グランドデザイン案の実現可能性や課題について

【パネリスト】

新井田 隆央・武田 忠義・亀崎 学・中原 慎一・大石 徳博・山中 正実・  
釣賀 一二三・白根 ゆり

## 17:20 閉会

●閉会挨拶／間野 勉(北海道立総合研究機構、ヒグマの会副会長)

## 展示 ブース

ヒグマにまつわる展示あれこれ、ご覧ください。

### ＜協賛企業展示＞

サージミヤワキ株式会社札幌営業所

### ＜会員他団体展示＞

NPO法人 TSUNAGU

熊塾

北海道ヒグマチャンネル

モリノコ・ファクトリー



講演  
1

## 西オホーツクのヒグマの生息状況

白根 ゆり(北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所)

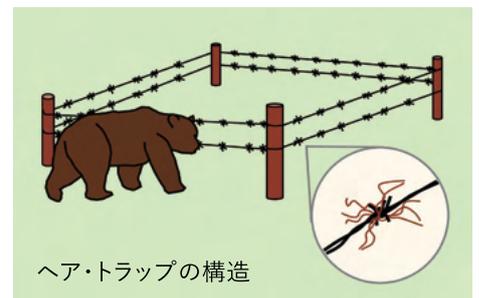
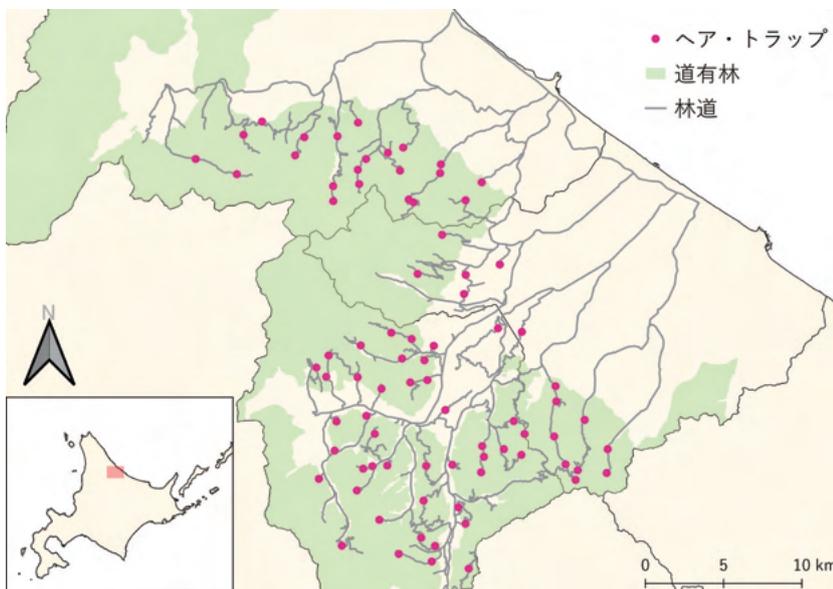
人とヒグマのあつれきを減らすためには、ヒグマが人里に侵入して被害を出さないようにする防除対策を徹底するとともに、被害を引き起こすヒグマや人里近くに生息するヒグマを確実に捕獲する必要がある。一方、ヒグマを捕獲しすぎて北海道のヒグマ個体群の存続を危うくしてはいけない。これらを両立させるため、北海道ヒグマ管理計画では捕獲頭数の上限を定め捕獲を実施している。上限設定の科学的根拠となるヒグマの個体数とその動向は、①年齢ごとの性別捕獲頭数、②分布や被害状況等から総合的に判断される増減傾向、③各地域の調査地で得られた生息密度推定値を用いて推定される。この方法は、個体数が上振れしやすいというモデル上の特徴を持つため、定期的に③の値を求めることで上限個体数を設定し、過大推定を抑制する必要がある。これまで、2012年に渡島半島地域で、2014年に道東・宗谷地域で生息密度調査が実施されたが、2014年の推定精度は低く、また、推定から時間が経過している問題があった。

北海道は、道東・宗谷地域における最新かつ高精度の生息密度推定値を得ることを目的として、2020～2021年にヘア・トラップ調査を実施した。ヘア・トラップとは、地面に打ち込んだ4本の杭に有刺鉄線を張り、有刺鉄線に絡まったヒグマの体毛を採取する装置である。採取した体毛をDNA分析することで個体を識別し、その結果から調査地におけるヒグマの生息密度を推定

することができる。雄武町・興部町・西興部村の道有林オホーツク西部管理区および隣接する森林を対象として80地点にヘア・トラップを設置し、6～8月に週1回体毛を採取した。体毛のDNA分析の結果、2020年には25頭(メス18頭、オス7頭)、2021年には38頭(メス20頭、オス18頭)が識別され、メスの生息密度は2020年に0.069頭/㎢(95%信頼区間0.038-0.125)、2021年に0.089頭/㎢(0.046-0.174)と推定された。2014年の推定値と比較すると信頼区間の幅が狭く、精度が高い結果であった。また、本調査の結果は道有林渡島西部管理区における2012年の推定値(0.215頭/㎢、0.141-0.327)よりも低く、地域により生息密度が異なることが確認された。

以上の結果を用いることで、道東・宗谷地域における個体数とその動向の推定精度が向上し、上限値は既存推定値の約70%となった。また、増加傾向も既存推定より緩やかとなった。さらに、道東・宗谷地域と生息密度が近い積丹・恵庭地域、天塩・増毛地域、夕張山地においても同様に推定精度が向上した。この成果は、2021年度に実施された北海道ヒグマ管理計画の改定作業に活用され、10年後の絶滅確率を5%未満とする上限捕獲頭数が定められた。北海道の適切なヒグマ保護管理の推進のため、今後も各地域で高精度な生息密度調査を実施する必要がある。

ヘア・トラップ設置地点



## 講演 1 profile

### 白根 ゆり (しらね・ゆり)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質・研究所(エネ環地研)自然環境部研究職員。1992年宝塚市生まれ。北海道大学獣医学院を修了し、2021年より現職。知床半島・渡島半島を中心に、食性分析や遺伝子分析によりヒグマの基礎生態及びあつれき軽減に関する研究に取り組む。



## 講演 2

### 興部の現状について

新井田 隆央(興部町産業振興課)

興部町は北海道の北東部、オホーツク海に面し東西34.2km、南北24.4kmで総面積は362.45km<sup>2</sup>を有し、北見山地系山間部を源としてオホーツク海に注ぐ5つの河川と、その支流の流域に農用地が広がり海岸線に近づくにしたがってなだらかに起伏する段丘地となっており、土地の約7割は森林、原野で、約2割が農用地となっている。酪農を中心として林業・漁業の一次産業を基幹産業とした町である。地域的には興部と沙留の2つの市街地があり、北興、宇津、秋里、朝日、豊野、豊畑、住吉、富丘の8つの農業集落地域がある。

近年、ヒグマ出没に対応する件数は増加してきており、かつては住民の生活圏外の牧草地やデントコーン畑での出没が主なものだったが、ここ数年では牧草地、デントコーン畑、道路横断、市街地での出没など、いずれも住民の生活圏に近い位置での出没が相次いで発生している。これまでは、デントコーン畑付近に箱罠を設置するなど、農業被害対策の対応が主であったが、近年は道路横断や、住宅地に近い牧草地やデントコーン畑、数年前には住宅密集地での出没もあり、住民の生活安全への対応策も講じなければならない状況となってきた。

対応に係る基本的な流れは、町が通報を受け、猟友会に出動要請を行い、追い払い又は捕獲の実施となるが、近年ではヒグマの目撃があった場合の通報は警察を通じて町へ連絡がくるという流れが多くなっている。警察においても目撃場所の付近住民への注意喚起の声掛け、パトロール等の対応が必要となり、負担が増えている状況である。また、出動件数の増加による猟友会の負担も重くなってきた。

ハンターによるヒグマ出没時の対応は、猟銃または箱罠による捕獲があるが、出没場所付近の日々のパトロールもあり、休日関係なく出動に

応じていただいている状況で、時期によっては連日対応していただくこともある。また、相手はヒグマであり、命がけの対応は精神的及び肉体的負担が大きいことから、関係者のサポートが重要と考えている。興部町におけるヒグマ出没に対する対応策は、農業被害防止及び住民の生活安全を守るために行うものであり、猟友会をはじめ、あらゆる関係機関との連携はとても重要であるので、今後も、適切な関係を構築し、対応策に努めていきたいと考えている。

ヒグマは北海道の自然の豊かさを象徴する動物であり、危険な害獣でもあるが、人とのあつれきを低減し、良い距離感で共存することが理想である。現在の出没状況から、出没場所に応じて、追い払いや捕獲の実施をしていくが、それは、当町だけであつれきの低減となれば良いものではなく、隣の地域、さらに隣の地域へと続くものであり、「北海道ヒグマ管理計画」を基に、全道的に取り組む一員として、ヒグマとの適正な距離感を構築していければと考える。

## 講演 2 profile

### 新井田 隆央(にいだ・たかお)

興部町産業振興課農業振興係長。1988年常呂町生まれ。2007年4月興部町役場に入庁。住民課、福祉保健課を経て、現在は産業振興課で農業振興を担当。2021年、住民課から産業振興課へ鳥獣関係業務の所管替えがあり、現在2名体制で従事。



講演  
3

## 西興部村のヒグマの現状について

中原 慎一（北海道猟友会興部支部西興部部会）

西興部村では、エゾシカを地域の自然資源として位置づけ、2004年より全村を鳥獣保護管理法に基づく「猟区」に設定して、ガイド付ハンティングによる管理を実施している。「猟区」とは鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の制度の一つであり、入猟者数・入猟日・捕獲対象鳥獣の種類・捕獲数などについて管理者が独自の管理をすることができる有料の猟場である。猟区での狩猟には入猟承認を取得の上、管理規定を守る必要があり、この制度を利用して地域にあった独自の鳥獣管理を行うことができる。

西興部村猟区の活動目的は、

- 1) エゾシカ個体群管理による農林業等被害の抑制
  - 2) ガイド付狩猟による安全な狩猟の実現
  - 3) 村外ハンターの誘致による地域経済の振興
  - 4) 野生動物管理の担い手としての狩猟者の教育
  - 5) 次世代型の野生動物地域管理システムの構築
- である。そのための活動内容は以下のとおりである。
- 1) 全国のハンターを対象とした地元ガイド付きの入猟事業
  - 2) 野生動物管理の担い手としての狩猟者や管理専門家育成のための狩猟学・野生動物管理学に関する総合的なセミナーや大学生実習を行う狩猟者教育事業
  - 3) 主に村内の小学生を対象とした野生動物や植物などをテーマにした環境教育事業
  - 4) ライトセンサス等による個体数指数モニタリング調査や捕獲個体分析、生息地調査および狩猟の詳細な記録による狩猟技術・文化調査等を行う調査研究事業

ヒグマは危険性からガイドハンティングの対象鳥獣としておらず、村および猟友会が対策を実施している。被害はすべて農業被害であり、目撃情報はあるが人身被害は起きていない。直近5年間(2019～2023年)の捕獲頭数は111頭で、わなによる捕獲は95頭、銃器が16頭で、わなでの捕獲が8割以上を占める。直近5年間のヒグマによるデントコーンの被害額は年間百万円程度であり、被害対策としてデントコーンのすべての圃場を電気柵で囲っている。

さらに、昨年度、担い手を育成するために北海道が行う「人里出没抑制等のための春期管理捕獲」を活用して「西興部村ヒグマ捕獲技術講習会及び春季管理捕獲事業」を3月31日に実施し、猟友会員11名の参加があった。当日は室内講義でヒグマの生態や捕獲方法や春期管理捕獲についてのレクチャーを行い、これまでの経験から「クマの姿が見えて、撃つ場合は立木を挟んで撃つこと、向かってきた場合に立木が盾になる」や「クマは一発で倒れても必ず止めでもう一発撃つこと」などを言及した。その後、フィールドに移動して捕獲を行ったが、足跡などの痕跡はあったが、捕獲には至らなかった。

今後も人材育成事業を積極的に行い、ベテランハンターから捕獲現場で安全かつ確実にヒグマを捕獲できるハンターの育成を行うとともに、農業被害が出る時期にはこれまで同様箱罠での捕獲を行っていきたい。

## 講演3 profile

中原 慎一（なかはら・しんいち）

1951年西興部村生まれ。北海道猟友会興部支部西興部部会会長、特定非営利活動法人西興部村猟区管理協会会長、西興部村養鹿研究会会長。1975年に狩猟免許を取得し主にヒグマとシカの捕獲に携わる。これまでに20頭ほどのヒグマを捕獲している。



## 北海道のヒグマ対策の現状と課題について

武田 忠義・亀崎 学(北海道環境生活部自然環境局野生生物課ヒグマ対策室)



ヒグマの保護管理の考え方は時代によって大きく変遷してきた。1962年に発生した十勝岳大噴火による降灰の影響等によりヒグマによる人身・家畜及び農作物に甚大な被害が生じたため、北海道は1963年から「ヒグマ捕獲奨励事業」を開始するとともに、1966年からは、ヒグマの駆除を積極的に進めるため、捕獲の容易な残雪期の許可捕獲による駆除事業「春グマ駆除」を開始した。その後1980年代にかけて人身・家畜等の被害の減少を見たが、個体数の減少と分布域の分断縮小による地域的絶滅が懸念されたことから、1990年3月をもって春グマ駆除を廃止した。しかし、春グマ駆除廃止後ヒグマは生息数と分布を回復し、それに伴う人とのあつれきの高まりを受け、2001年の「渡島半島地域ヒグマ保護管理計画」策定を皮切りにヒグマの地域個体群の存続を図りつつ、人身事故などヒグマによるあつれきの低減を目指す科学的かつ計画的な保護管理を推進してきた。現在は「北海道ヒグマ管理計画(第2期)」(2022年4月～2027年3月)期間中である。

道ではこれらの計画に基づき、これまで、人とヒグマとのあつれき低減のために、問題個体の捕獲を推進してきた。しかし、個体数増加によって市街地出没が頻発する現状を踏まえ、新たにゾーニング管理やあつれきの低減を目的とした

個体数水準まで個体数を抑制する方策を加え、年内に計画の一部改定を目指している。その概要を中心に、現在の取組みについて紹介する。

さらに全国的なクマ類と人とのあつれき増加を踏まえ、国においても今年4月16日、四国個体群を除くクマ類を鳥獣保護管理法に基づく指定管理鳥獣に指定し、また市街地出没事案の増加を踏まえ、住居集合地域等の銃猟を禁止している鳥獣保護管理法の見直しを検討しており、それらの動きも併せて紹介する。

以上の動きを踏まえ、今後、各地域においてあつれき低減のために計画的かつ効果的な対策を推進する必要がある。オホーツク管内でも各地でヒグマの市街地出没が続き、農業被害も大きく、人身事故も昨年まで5年連続で発生しており、具体的な進め方は今後整理していくことになるが、各市町村においてはそれぞれの地域でのゾーニング実施とそれに基づく捕獲推進が期待される。各(総合)振興局においては、ゾーニング実施や捕獲体制のための市町村支援や市町村間・関係機関等との調整、さらには地域版実施計画に基づく管内全体の取組の調整と推進が求められ、今まで以上に、道と市町村との連携の上で課題解決を図っていくことが重要となる。

### 講演4 profile

#### 亀崎 学(かめざき・さとる)

北海道環境生活部自然環境局野生生物課ヒグマ対策室主査。1977年東京都世田谷区生まれ。2018年早稲田大学人間科学部卒。2018年北海道庁に入庁し、オホーツク総合振興局環境生活課を経て2024年ヒグマ対策室勤務。



#### 武田 忠義(たけだ・ただよし)

北海道環境生活部自然環境局野生生物課ヒグマ対策室主幹。1964年江別市生まれ。1989年北海道大学獣医学部卒。1990年北海道庁に入庁し、主に野生鳥獣の管理や生物多様性保全などを担当。2022年のヒグマ対策室設置から現職。



### 講演4 profile



講演  
5

## ヒグマによる人身事故とその防ぎ方

釣賀 一二三(北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所、ヒグマの会理事)

近年、北海道ではヒグマの分布が拡大しており、人の生活圏への出没も増加傾向にある。それに伴って人とヒグマの間に起こるあつれきも増加しているが、最も懸念されるのが人身事故の発生である。昨年(2023年)は6件の事故が発生し、不幸にも2名の方が亡くなった。今年も被害者が亡くなった事例はないものの、2件の事故が発生している。

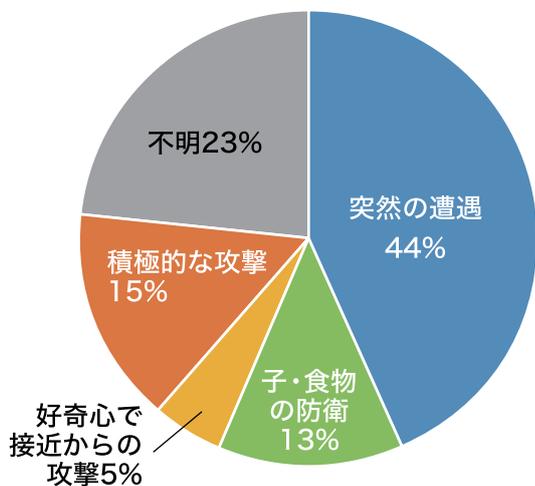
道総研エネ環地研では、ヒグマによる人身事故が発生すると、できるだけ早く事故現場の調査を実施する。調査では、事故の発生状況や事故を起こしたクマがどのような個体であったかを調べるとともに、可能な限り、被害者の方から事故発生の前後や発生時の状況について、詳しく聞き取りを行う。このような調査の最も重要な目的は、「なぜ事故が起こったのか」を明らかにし、同様の事故が発生しないようにするためである。

一つ一つ詳細に事故を調べると、共通点がみつかる。その共通点にしたがって過去に発生した事故を類型化すると、被害者が狩猟者の場合

とそれ以外の、大きく2つに分けることができる。被害者が狩猟者の場合、発生原因の多くが「手負い個体による反撃」である。それに対して、狩猟者以外の場合は3つの発生原因があり、「防御的攻撃」、「興味本位の接近・つきまとい」そして「積極的攻撃・捕食行動」である。

発生頻度が高くなる「防御的攻撃」は、人とクマの突然の遭遇や、子連れの母グマによって引き起こされることから、「クマに人の存在を知らせる」ことで回避ができると考えられる。言い換えれば、これまで言われてきた当たり前の対策を徹底することによって、多くの事故を防止することが可能であるといえる。一方、「興味本位の接近・つきまとい」や「積極的攻撃・捕食行動」による事故の発生頻度は低くなっている。前者は、クマとの遭遇時に走って逃げるなど、不適切な対応をした場合に発生し、経験の浅い若いクマによる事例が多く見られる点に注意が必要である。また、後者の「積極的攻撃・捕食行動」による事故は、餌付けなどの誤った行為によって人間から食物を得られることを学習した問題個体によって引き起こされ、同一個体によって繰り返し被害が発生するなど、深刻な事態を招く。いずれの場合でも、クマに関する正しい知識を身につけて遭遇時に適切な対応ができるように準備をしておくこと、そして日常生活では意図しない餌付けによって問題個体を生み出さないように普段から心がけておくことが重要である。

講演では、ヒグマによる人身事故のうち、狩猟者を除く一般の方が被害者になる場合の3つのパターンを詳しく説明し、人身事故を防ぐための対策についてお話しする。



ヒグマによる人身事故の原因1989-2019  
(狩猟者を除く、ヒグマノート第5版より)

## 講演 5 profile

## 釣賀 一二三(つるが・ひふみ)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質・研究所(エネ環地研)自然環境部長、ヒグマの会理事。1964年京都市生まれ。1998年に北海道環境科学研究センター(現エネ環地研)道南地区野生生物室に着任。2023年より現職。人とヒグマのあつれき軽減に関する調査・研究に取り組んでいる。



## 興部地域のグランドデザイン案の提案

山中 正実(知床財団、ヒグマの会理事)・大石 徳博(猟友会興部支部長)



## ヒトの暮らし、クマの棲み家を分けるゾーニング

近年、興部町ではヒグマの出没が、市街地周辺でも頻繁になり、時に市街地内にさえ侵入するようになった。ヒグマと棲み分けるための線引き(ゾーニング)を行い、ゾーンごとに対策方針を定めて着実に実行することが必要である。興部町におけるゾーニングのあり方を以下のように提案する。

## 排除地域

人家が多い市街地や隣接する樹林地・農地など。電気柵なども活用してヒグマの侵入を許容しない。緊急時の危機管理の仕組みを整える。中心市街と沙留市街の2箇所。

## 防除地域

中心市街地周辺の興部川中下流域と沙留市街地周辺地域。人家や農地が一定程度存在する地域、およびその周辺の山林。積極的な捕獲を進め、ヒグマを安定的に生息させない。被害防除を強化することで農業被害を防ぎ、排除地域内への誘引原因としない。

## 緩衝地帯

防除地域外縁部の森林や農地。人家や農地も少数存在。残雪期を中心に一定数の捕獲や農業被害の加害個体の駆除を行い、ヒグマの個体数の増加を抑制するとともに、人に対する警戒心を維持させる。農地周辺では被害防除を積極的に行い、付近に定着させない。

## コア生息地

於達辺川・瑠椽川・班溪川上流部の森林地帯。自然状態に維持するが、攻撃的な個体は排除する。持続的な狩猟活動を通じて、一定の緊張関係を維持する。



興部町におけるヒグマ対策のゾーニングのイメージと土地利用区分



## 地域のヒグマを知る

計画の立案と実行、さらに効果検証のためにも、地域のヒグマの状況を把握する調査やモニタリングが必要である。一握りでも問題グマが放置されれば、重大な問題が発生するため、ヒグマ問題は生息数の調整だけでは済まない。攻撃的な個体や家畜に執着する個体を速やかに感知して即応するために、日常的な状況の把握と分析が欠かせない。

## 誰が実行するのか

上記の総合的な対策を着実にかつ継続的に遂行する必要がある。排除地域では日常のパトロールや侵入を防ぐ設備等の維持管理が欠かせず、緊急時には即応する必要がある。防除地域では、強い捕獲圧をかけ続けヒグマの安定的な生息を防ぐ必要がある。地域に対する普及啓発や被害防除も継続的に支援しなければならない。既に興部の現状は、随時の出没対応だけで問題を解決できる段階ではない状況と考えられる。

現在、ヒグマ出没対応は猟友会に委ねられている。しかし、定職を持つ猟友会員が、上記のような総合対策を継続的に担うことは困難である。さらに、現在猟友会興部部会会員は13人、平日即応できる者は2名程度にすぎない。会員の高齢化や減少により、捕獲対応だけでも近い将来困難になることは明白である。

## 被害を防ぐ知恵を広める

ゾーニングによる対策と防除を両輪で進めなければ農業被害は解決できない。また、安全対策の知識を広めることが人身被害防止には最も重要である。特に、交通安全教育と同様に、学校教育の中で子供の頃から知識を身につける仕組みを作る必要がある。

持続性のある実働組織を地域に再構築することが必須である。精鋭が専従で活動できる環境があれば多人数は必要なく、単独自治体での対応が難しければ、周辺自治体との連携による体制の構築も想定できる。

高度成長期以降、奥山に追いやられていたケモノたちの「大逆襲の時代」を今迎えている。獣害に対抗できる社会基盤が必須の時代となった。キムンカムイは恐怖の猛獣ではないが、正しく警戒し、必要時には断固として対処できる力を地域に維持する必要がある。ヒグマばかりではなく、増え続けるエゾシカも強い捕獲圧を加え続けなければ手に負えなくなる。興部地域においても、社会インフラとしての獣害対策体制の再構築は避けることはできないと考える。

### 講演6 profile

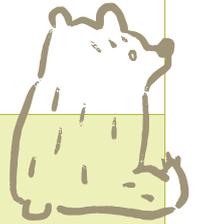
#### 山中 正実(やまなか・まさみ)

知床財団特別研究員、ヒグマの会理事。1959年山口県生まれ。ヒグマに関わり47年、知床に暮らしはじめてから37年。知床国立公園のヒグマ管理知床自然世界遺産地域の世界に恥じない管理体制作りを奔走。ヒトとヒグマが折り合いを付ける道の模索取り組んでいる。



興部地域におけるヒトとヒグマの棲み分け(ゾーニング)と対策案

	排除地域 (絶対防衛圏)	防除地域 (絶対防衛圏を守る 対策強化地域)	緩衝地帯 (ヒグマ管理と被害対策地域)	コア生息地 (奥山のヒグマ生息地)
環境条件	人家や人口が多い市街地とその隣接部。	排除地域周辺で、人家や農地が存在する地域、およびその周辺の山林。	防除地域周辺の山林を中心とする環境。人家や農地も少数存在。	人の生活圏から離れた人家や農地のない山林。
目標	ヒグマの存在・侵入を許容しない。	地域内にヒグマを安定的に生息させない。農業被害等の防除を徹底する。	ヒグマの増加を抑制し、人に対する警戒心を維持させる。農業被害等は防除する。	自然状態を維持する。
ヒグマ対応	侵入個体は確実に駆除、または追い払いヒグマの侵入や潜伏も許さない。	残雪期から樹木の開葉期前にかけて、全域で強い捕獲圧をかける。餌場や繁殖の場として定着的に利用させない。農業被害を発生させる個体や行動段階1以上の個体は駆除する。	残雪期を中心に一定数の捕獲を維持し、増加を抑制する。農業被害を発生させる個体や行動段階1以上の個体は駆除する。	攻撃的な個体は捕獲対象とする。狩猟活動は維持して、一定の緊張関係を保つ。
農業被害等の防除	デントコーンなどの農作物は完全に防除して、ヒグマを誘引しない。	農作物・家畜の被害防除を強化することで被害を防ぎ、また、排除地域への誘引原因としない。	農作物・家畜の被害防除を着実に進める。	
その他の誘引物管理	家庭ゴミや産業廃棄物、交通事故シカ、海獣死体など海岸漂着物の管理を徹底しヒグマを誘引しない。	同 左	同 左	
環境管理地域防衛	ヒグマの侵入や潜伏を招く高茎草本群落やササ藪を極力なくす。ヒグマの好む果実をつける樹種を減少させる樹林管理を行う。電気柵や物理的な柵を活用して、面的に防衛する。	農地整備計画、森林整備計画を通じて中長期的にヒグマの潜伏場所や移動経路となり得る環境を減少させていく。	農家や放牧地周辺については、高茎草本群落などヒグマの潜伏場所や移動経路となり得る環境を中長期的に減少させていく。	ヒグマの生息に配慮した森林管理を行い、安定的に生息できる環境を維持する。
普及啓発	学校教育や社会教育活動を通じて安全対策や被害対策の知識を普及させる。	同左、および農業被害対策に関する知識や技術の普及を図る。	同 左	



大石 徳博(おおいし・のりひろ)

北海道猟友会興部支部長。1967年興部町生まれ。放牧牛の野犬被害対策に関わったことがきっかけで猟銃を所持。かつては牧草地に出たヒグマへの対応程度だったものが、近年は市街地侵入へも対応を求められるようになり、苦慮している。



講演6 profile



緊急対策 電気柵

# スマートフェンス&ガラガーS12

コンパクトでハイパワー!



※写真はガラガーS6

ガラガー 番兵 S12 ソーラー・バッテリー内蔵



支柱がアースに  
イージーアースシステム

クリップを挟むだけで通電OK

ワイヤー・リール・ポール一体



スマートフェンス



架線は引っ張るだけ



撤収・移動も簡単

サージ ミヤワキ株式会社  
SMC 札幌営業所 北海道石狩郡当別町字東裏 1338-10

全国の自治体で緊急対策として利用されています

☎ 0133-25-2222 📠 0133-25-2255 🌐 surge-m.co.jp



野生動物調査用

## GPS首輪

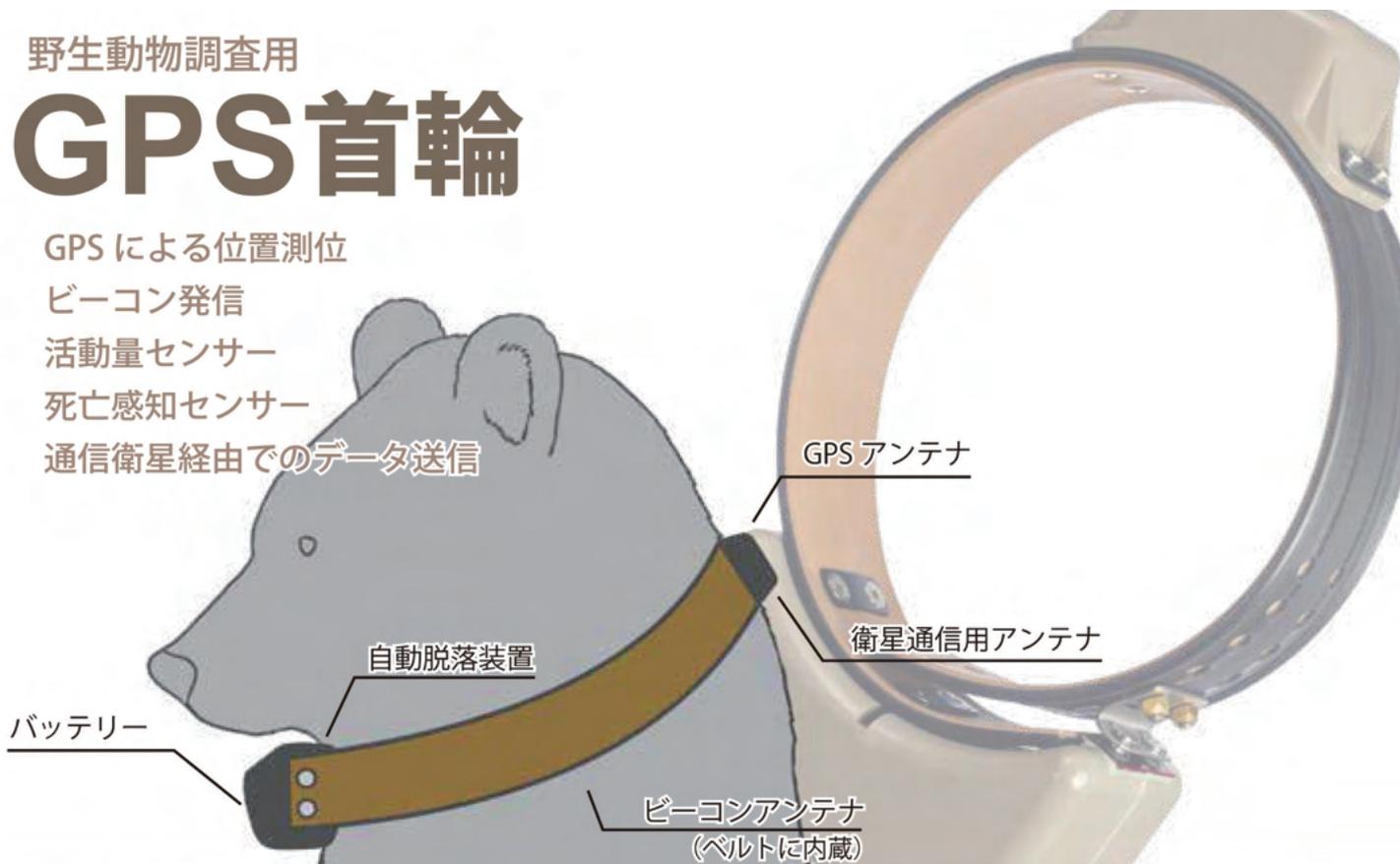
GPSによる位置測位

ビーコン発信

活動量センサー

死亡感知センサー

通信衛星経由でのデータ送信



GPS アンテナ

衛星通信用アンテナ

自動脱落装置

バッテリー

ビーコンアンテナ  
(ベルトに内蔵)

株式会社 ティンバーテック

〒079-8412 北海道旭川市永山2条20丁目2-2

TEL 0166-49-2035 / WEB <https://timber.co.jp>

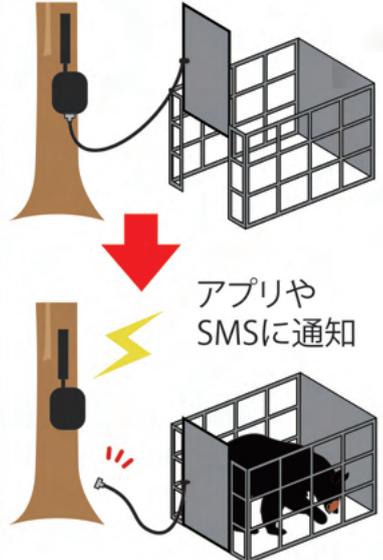
# マグネットが外れると スマホアプリやSMSに通知



4G

## WANA センサー 4G

- ・4G通信を利用したアラート機能
- ・3キャリアに対応 (docomo, KDDI, SoftBank)
- ・単3乾電池4本で動作
- ・最大半年間のバッテリー寿命 (メーカー公称、1日2回の定時レポート設定時)
- ・無料アプリ (iOS, Android)
- ・日本語メニュー
- ・IP56
- ・国内電波法認証済み



アプリや  
SMSに通知

WANA センサー 4G  
製品情報



ジーアイショップ

Web : [www.gishop.jp](http://www.gishop.jp)

株式会社 GISupply (ジーアイサプライ)

北海道上川郡東川町南町3丁目8-15    TEL 0166 (73) 3787

メール: [info@gishop.jp](mailto:info@gishop.jp)    FAX 0166 (73) 3788

## ファームエイジのクマ対策アイテム

作物を荒らすクマから畑を守るなら！

# クマ対策

## 電気柵

### セット

(3段張、出入り口1箇所、周囲100m)

¥82,500 (税込) ~



※クマ100ソラーセットのイメージです

# クマ撃退スプレー

¥15,180 (税込)

高いカブサイシン含有量と  
12.2mと長い噴射距離！(約7~8秒間)  
ホルスター付きで持ち歩き便利！

お問合せ下さい



全国送料無料で  
総合カタログを  
お届け致します！  
お気軽にお問合わせ  
ください！

# FAR夢

ファームエイジ株式会社

〒061-0212 北海道石狩郡当別町字金沢166  
TEL: (0133)22-3060 / FAX: (0133)22-3013

エイジで 良い柵を

# 0120-82-4390

(営業時間: 平日9:00~17:30)

ヒトとヒグマの共存を目指した史上最強ゴミステーション

# とれんべア

クマにゴミを  
荒らされない  
ために作られた  
ゴミステーション



扉がロック式  
金属レバーを押し上げる。



- ◆容量：45L袋×約30袋分
- ◆大きさ：高さ1300×横幅1650×奥行900mm
- ◆本体重量：約250kg
- ◆コンクリート平板：約900kg



(試験協力 旭川市旭山動物園)

## ヒグマに強い3つの理由

2mm厚の鋼材を使用し、中身が見えず匂いが漏れにくい箱型のため、クマを誘引しにくく叩いても壊れない頑丈な構造となっています。

扉がロック式のため、クマの爪が引っかからず、万が一転倒しても扉が開かないようになっています。

コンクリート平板を基礎にしているため、クマが押しでも倒れないようになっています。(コンクリート約900kg)



(試験協力 旭川市旭山動物園)

共同開発者： 知床財団 × シティ環境株式会社

**City** シティ



ゴミの専門業者

シティ環境株式会社

**0152-61-2663**

お問合せ：午前9時～午後5時（月曜日～金曜日）  
〒093-0042 網走市字潮見177-32 FAX：0152-61-2664

## コアカリ野生動物学 第2版

日本野生動物医学会 編 編集 浅野 玄、大沼 学、坪田敏男

執筆：浅野 玄、大沼 学、岸本真弓、齊藤慶輔、佐々木基樹、下鶴倫人、鈴木正嗣、高見一利、田島木綿子、チェンバーズ ジェームズ、坪田敏男、濱崎伸一郎、羽山伸一、森光由樹、山口剛士

B5判、208頁、ソフトカバー 2023年4月発行 定価 4,180円（本体 3,800円＋税）

初版発行から8年が経過し、最新の情報を取り入れました。獣医学教育モデル・コア・カリキュラム2019年版にあわせて章を再構築し、より理解しやすい構成となっています。野生動物学の学びはじめに必要な事項を網羅し、コンパクトにまとめた1冊です。そのため獣医系大学をはじめ、多くの大学や専門学校で教科書として使用されています。

章構成 第1章 生物多様性／第2章 脊椎動物の進化と生物種の分類／第3章 野生動物の形態と機能／第4章 野生動物の生態と個体群動態／第5章 野生動物の捕獲と不動化／第6章 野生動物の疾病／第7章 野生動物の救護とリハビリテーション／第8章 絶滅危惧種の保全／第9章 野生動物のマネジメント／第10章 野生動物に関わる法制度／第11章 動物園・水族館学



日本の哺乳類学百年のあゆみ 日本哺乳類学会 編 B5判、448頁 2023年8月発行 定価（本体 6,000円＋税）

日本哺乳類学会の総力を結集した日本哺乳類学百年の学術白書。哺乳類学を体系的に解説してあります。



動物の飼料 第2版 唐澤 豊、菅原邦生、神 勝紀 編 A5判、320頁 2017年10月発行 定価（本体 4,400円＋税）

食の安全性に最も密接な飼料の安全性に特段に配慮し、各エキスパートが最新のデータを盛り込み解説したテキスト。旧版を全面改訂した第2版。

動物の飼育管理 鎌田壽彦、佐藤 幹、祐森誠司、安江 健 編 A5判、336頁 2017年8月発行 定価（本体 4,400円＋税）

名著『家畜の管理』を踏襲しつつ、牛、豚、鶏に加え、産業動物としての山羊、羊、馬、実験用動物、伴侶動物、展示動物の飼育管理について、各エキスパートが最新の情報をもとに解説したテキスト。



文永堂出版

検索

click!

Tel 03-3814-3321

# 元祖熊撃退スプレー

# カウンターアソルト!!

熊スプレーの偽物にご注意ください!!  
 対人用に製造された護身スプレーを、「熊スプレー」と偽り販売している業者があるのでご注意ください。  
 日本では法規制が未整備ですが、熊スプレーの発祥地の米国では環境保護庁 (EPA) から「BEAR SPRAY」として登録された製品のみ「BEAR SPRAY」として製造と販売が認められています。  
 詳細は当社のカタログをご参照ください。



●写真提供 : Bushwaker Backpack & Supply Co Inc

専用バックルホルスター



熊対策食料コンテナ



野生動物被害防除簡易電気柵



当社は1989年に日本に初めて熊撃退スプレー『カウンターアソルト』を商業目的で輸入して以来、クマを殺さずに被害を防ぐことを目指して30年以上活動を続けているスモールカンパニーです。  
 ビジネスを通して非殺傷的手段による野生動物の保護管理と被害対策の普及・啓発を事業目的としています。



## 【元祖熊撃退スプレー】

元祖熊撃退スプレー「カウンターアソルト」(CA230)と姉妹品「カウンターアソルト・ストロンガー」(CA290)は、世界各地で野生動物の研究者やアウトドアスポーツを楽しむ人々、行政機関の職員などに使用されています。

「カウンターアソルト」は米国モンタナ大学の研究者達によって、熊の攻撃を阻止する効果が科学的に証明されている、世界で最初に開発された熊撃退スプレーです。  
 最強の辛さ度300万SHUのカプサイシンを成分に使用!!

写真左/カウンターアソルト (CA230) 写真右/カウンターアソルト・ストロンガー (CA290)  
 米国環境保護庁 (EPA) から「BEAR SPRAY」として公的に認証を受けている熊撃退スプレー。  
 各地で熊の捕獲・放獣事業で採用されています。

●OUTBACK for Public & Education Program : 国や地方の官公庁・行政機関や、国公私立の教育機関などのお客様に、特別価格で提供する制度を用意しております。

The import agency of COUNTER ASSAULT in State of Montana of USA

## OUTBACK TRADING COMPANY LTD.

16-27-1 Teshiromori Morioka,  
 Iwate 020-0401 JAPAN  
 International Phone: +81-19-696-4647  
 International Fax: +81-19-696-4678  
 E-mail: outback@cup.com



カウンターアソルトの日本総輸入代理店  
**有限会社アウトバック**

〒020-0401 岩手県盛岡市手代森16-27-1  
 TEL:019-696-4647 FAX: 019-696-4678



### 【主な取扱商品】

- 元祖熊撃退スプレー「カウンターアソルト」
- 「カウンターアソルト・ストロンガー」
- 各種熊避け鈴
- ガラガー社電気柵
- 熊対策食料コンテナ
- 各種アウトドア用品
- 熊よけホイッスル
- 又鬼山刀
- プロ専用虫除け

馬具職人手作りの逸品 南部熊鈴シリーズ



熊よけ鈴・熊に金棒シリーズ



●商品の詳しい資料・カタログはFAXまたはE-mailでご請求下さい。

<http://outback.cup.com/>



# PINELAND FACTORY

営業日時：[SAT] [SUN] 11:00~16:00

【道の駅おこっぺから車で3分】 住所：北海道紋別郡興部町字北興40番地 電話：0158-88-2344



オホーツク興部町の牧場 & 宿泊 & チーズ工房

## Fermier Tomita

フェルミエ・トミタ

### Cheese & Farm Inn

牧草は肥料の状態により変化する。  
よい土でなければよい牧草は出来ず、  
よい牧草が出来なければ安定した味の  
牛乳は出来ない。

#### 原料に勝る技術なし

富田泰雄 座右の銘

#### 2020年 牧草の有機JASを取得

当牧場は30年以上、牛が食む牧草・土壌の  
分析を行いながら、不要な化学肥料を使用せず、  
排泄された有機質を土に還元する循環農法を  
取り入れ続け、よい土づくりに努めてきました。



〒098-1624 北海道紋別郡興部町字津99-8  
TEL / 0158-88-2611 FAX / 0158-82-2640  
Mail / staff@tomita-farm.jp



[www.tomita-farm.jp](http://www.tomita-farm.jp)



【宿泊：LODGING】

#### ファームイン富田

大自然の中でゆったりとしたひとときを  
過ごして頂けます。  
美味しい手作りの料理  
と楽しいファーム  
体験もできます。



【直営店：SHOP】

#### ミルクの夢

2008年オープン。希少な  
手づくりチーズやソフト  
クリームなどを取り揃  
えております。

営業時間：10:00~17:00  
定休日：水曜日  
お問合せ：0158-88-2611



## チーズ工房アドナイ

北海道のオホーツク海に面した興部町にあるチーズ工房です。海と山にかこまれた興部町近郊の優秀な酪農家の牛乳を使い、ヨーロッパの農家の作るチーズをお手本に約10種類のチーズを家族で製造・販売しています。季節や牛乳によってそれぞれの個性があらわれてくるチーズ。ぜひおたのしみください。



住所 / 北海道紋別郡興部町字興部 914-12

TEL / 0158-82-3133

FAX / 0158-82-2453

*adonai*



## 大地も草も牛も人もみんな健康 オホーツクのしあわせをおすそわけ

### North Plain Farm

オホーツク海をのぞむおこっぺ町にある小さな牧場。それが私たち「ノースプレインファーム」です。自然の味をそのまま生かしたおいしさを作ることを大切に、有機牧草による牛の飼育をはじめとした、ごまかしのない率直な乳製品づくりに取り組んでいます。



牛のえさから製品の加工まで、信頼のオーガニック有機畜産物、有機加工食品の2つの有機 JAS 認証を取得しています。

### ノースプレインファーム株式会社

〒098-1622 北海道紋別郡興部町北興 116-2

<https://northplainfarm.co.jp> TEL 0158-88-2000



### 農場直営ショップ・レストラン ミルクホール

営業時間 10:00~17:00  
ランチタイム 11:00~14:00  
カフェメニュー 10:00~16:30  
火曜日定休日  
(祝日は営業の場合があります)



ノースプレインファームのSNS



note



Instagram



twitter



facebook



## これからの10年 ヒグマと向き合うグランドデザイン【詳細版】

人は減り、クマが増え、人とクマが隣り合わせで暮らす現在に私たちは直面しています。新しい時代に対応していくためには、ヒグマに強い地域作りが不可欠です。そのために向こう10年何をすべきなのか―。ヒグマの会では「これからの10年 ヒグマと向き合うグランドデザイン【詳細版】」と題して提言をまとめました。

こちらのリンクからグランドデザイン【詳細版】をご覧ください。



## ヒグマの会について

「ヒグマの会」は1979年の設立以来、研究者や行政職員、そして一般市民らが集まり、幅広い立場から「ヒトとヒグマ」の関わりを考え、調査や提言を行ってきました。単にかわいがる、守る、ということではなく、この複雑で多面的な生き物とどう「折り合い」をつけていくか。ヒグマを知ることは、「人間と自然」について深く考えることにも繋がります。北海道というこの島で、私たちはどうやって彼らと末永く共に生きていくのか。ご一緒に考えてみませんか。

入会に年齢・職業などの制限はありません。「ヒグマの会」は、ヒグマに興味のある方・ヒグマの被害に困っている方、研究者・専門家・道や市町村の鳥獣担当者・野生動物管理のNPO・NGO職員・狩猟者・農家・登山家・釣り人・一般市民から学生まで、バラエティーに富んだ会員構成になっています。



### 【年会費】

- ・一般会員3000円
- ・学生会員1000円(小学・中学・高校・大学・院生・専門学校生)
- ・団体会員10000円(1団体につき)

入会希望の方はヒグマの会HPからお問い合わせください▶

<https://www.higumanokai.org/>



事務局:(事務局長 佐藤喜和) E-mail : [higuma.no.kai.1979@gmail.com](mailto:higuma.no.kai.1979@gmail.com)



写真提供:大石涼夏・涼平  
編集・イラスト:エトブン社